

ふれあい情報

2017年 6月2日(金) 第255号

■発行 日本退職者連合
 ■発行人 菅井 義夫
 ■連絡先 〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台 3-2-11

<TEL> 03-5295-0507 <FAX> 03-5295-0541 <e-mail> ntr@sv.rengo-net.or.jp

5月29日 厚労省検討会が合意ないまま報告書まとめる

「解雇の金銭解決制度導入」は許さない！

連続厚労省前集會に退職者連合の會員が延べ131人参加

誰のための何のための 導入か。

連合や退職者連合が強く反対してきた「解雇の金銭解決制度導入」について厚生労働省の検討会は、5月29日に報告書をまとめました。2015年10月から始まった検討会は、この日で20回を重ねましたが、その姿は、2015年の日本再興戦略の筋書き通りにすすむ厚労省の労働法制改悪推進の姿勢を浮き彫りにしています。



ねらいは「日本を世界で最悪・最低、労働者を粗末にする国」づくり？

誰のための何のための導入 躍しやうい国にする」と豪語する安倍か。ずばり、ねらいは労働者 首相。裏を返せば「日本を世界で最悪を使い捨てにしたい使用者の 悪・最低、労働者を粗末にする国」のための「解雇規制の緩和」。派 しい安倍首相。戦後70年間積み上げた遣法改悪、労働基準法改悪な げられてきた解雇規制が、安倍政権のど「労働法制の規制緩和」で トップダウンによる規制緩和で崩さ「日本を世界で一番企業が活 せようとしています。働く者にとって



言語道断の改悪攻撃です。

ねらいは労働者使
 い捨ての「解雇規制
 の緩和」

ホームページは退職者連合で検索を

退職者連合

検索

▲厚労省前の連続反対集會には退職者連合の會員が延べ131人参加した。

(写真は、5月22日の厚労省前行動)



▲退職者連合を代表して検討会の労働側委員や連合組合員、退職者連合会員を激励する菅井義夫事務局長。右は、神津里季生連合会長。(4月26日、厚労省前)

「労政審での議論はいろいろな。導入の議論は、働く人に大きな不安をかき立てることになる」(村上陽子連合総合労働局長)

にもかかわらず厚労省

は、引き続き労働政策審議

会で検討していくことを

決めました。この強引な姿

勢こそ、検討会終了後に担

当官が述べた「閣議決定に

沿って進めるだけ」との言

葉に表れています。

報告書について労働側

委員の村上陽子連合総合

労働局長は、厚労省に対し

「制度導入ありきの議論

を継続する必要はなく、労

政審での議論はいろいろな。

導入の議論は、働く人に大

きな不安をかき立てること

となる」と検討の打ち切

りを強く主張しました。

退職者連合は、「雇用の安

定こそ、社会保障制度の安

定。雇用を不安にさせる解

雇の金銭解決制度の導入は

絶対許さない」との立場か

ら、1月30日に開かれた連

合主催の「解雇の金銭解決

制度導入反対！」厚労省前

(労働側委員) 激励集會に

参加。以来、検討会が開か

れるたびに3月3日、4月

3日、4月26日、5月15

日、22日と連続して連合の

行動に連帯してきました。

1月から5月まで、行動参

加した退職者連合の会員は

延べ1311人です。

今後、引き続き労政審で

の検討が続けられますが、あ

くまで「制度導入は絶対に許

さない」立場から連合と連携

して闘います。

報告書の最大の問題点は、
制度導入の必要性について
委員の合意が得られていな

いことです。厚労省はこの
点を認め、報告書は「3論
併記」となっています。

連合と連帯して闘いぬく

「安定した雇用を確保するため、しっかりと社会保障制度を(現役のみ
なさんの世代につなげるため)」菅井事務局長の激励あいさつ。



(写真左)厚労省前集會に参加した退職者連合のみなさん。(5月15日)